

アジアの次世代を担う若者育成

株三菱 UFJ フィナンシャル・グループ
CSR 推進部 木村真理

三菱 UFJ フィナンシャル・グループ (以下 MUFG) は、社会の皆さまに支えていただいている存在として社会の重要課題に正面から取り組む責任があると考え、CSR 活動の中でも、特に「地球環境問題への対応」「次世代社会の担い手育成」の 2 つをグループ全体での重点取り組み領域と定めている。今回は「次世代社会の担い手育成」の一環として、公益財団法人オイスカ (以下オイスカ) と協働して行っている「アジア・太平洋地域の次世代担い手研修」についてご紹介したい。

10 カ国の若者が畳で共同生活

本施策は、MUFG がオイスカの「人材の育成こそが、環境や貧困などの問題を根本から解決する本質的な取り組みである」という考えに共感し、2008 年 4 月より始められたものである。

福岡市にあるオイスカの「西日本研修センター」にはこの研修に参加するため、毎年 4 月になるとアジア・太平洋地域にある国々より研修生が 10 名ほど*集まってくる。持続可能な農業生産技術

の習得に加え、指導者になるために必要なマネジメント感覚および自助努力の精神を養うことを目的にこの研修センターで共同生活を送るのだ。

(*) 2011年度は、カンボジア、フィジー、インド、ミャンマー、モンゴル、フィリピン、バプアニューギニア、インドネシア、マレーシア、東ティモールなどから計11名

国や言語・宗教など異なる文化の若者たちが、寝食を共にするため、当初は戸惑いを隠せない。中には、英語・日本語が全く話せない者もいるため、コミュニケーションをとるのも一苦勞である。そこで、研修センター内の共通語は日本語とし、本コースでは、まず、日本語習得を中心とした基礎研修を行うのである。また、研修センターでの食事は和食、研修生の居室も畳敷きの和室であり、彼らは日本文化の中で暮らすことになる。

日本に来てから約 3 カ月で研修生たちは簡単な日本語をマスターし、その後、環境保全型有機農業に関する実務研修を実施する。この技術研修では、有機農業には欠かせないボカシ (有機肥料の種菌) や堆肥作りから始まり、農業機械のメンテナンスや研修生たちの国の天候や土壌に合わせた栽培方法などを幅広く学ぶ。また、国を代表して日本に学びに来ている研修生たちが、祖国に帰った際にリーダーとなり、地域住民や次の世代へ有機農業技術を伝えられるよう、マネジメント研修



祖国の紹介に力が入る研修生

研修センター共通言語の日本語を勉強



農業研修で有機農法を学ぶ

なども行われる。

研修生と従業員の交流図る

MUFGは資金面だけの支援ではなく、本研修の社内での理解を深めることを目的に、MUFGグループ各社の社員とその家族を対象とした「従業員体験プログラム」を実施している。夏になると研修生が愛知県豊田市にある「中部日本研修センター」に研修のため滞在しており、その機会に中部地区在住のMUFGグループ社員を対象としたものを、また冬には「西日本研修センター」のある福岡地区在住のMUFGグループ社員を対象とした「従業員体験プログラム」を開催している。

このプログラムは、①MUFGグループ内での研修コースの浸透 ②有機農業体験を通して環境保全の大切さを学ぶ ③頑張っている研修生の励みになりたい、という理由から始まったものである。2011年度からは、従業員の多い首都圏エリアでも同様のプログラムが企画・開催された。

同プログラムではまず、研修生がこれまでの研修で学んだことを活かし、帰国後にどのような活動を行うかを発表する。これは、MUFGグループ社員が世界の情勢を勉強する機会というだけでなく、研修生にとっても「自分たちを支援してくれている企業の社員へ発表」をすることで、研修に対するモチベーション向上にもつながっている。この発表を聞いた社員からは、「アジア・太平洋地域の人の生の声を聞くいい経験となった」という声が出ている。

その後はオイスカ研修センターの農場へ場所を移しての農業体験。ここでは普段の作業で慣れている研修生がMUFGの社員を指導して、夏の開催であればトマトやじゃがいも、冬の開催であれば大根やネギなどの野菜の収穫に汗を流す。慣れない農作業に最初は戸惑い気味だったMUFGの社員も、研修生たちの明るい笑顔と土に触れる楽しさを味わい、また有機農業でできた新鮮で安全、かつおいしい野菜を知り、笑顔あふれる農業体験となっている。

また、昨年からは、このプログラムに「研修



従業員交流会で研修生のお国料理を一緒につくる



交流会での初めての農作業で笑顔がいっぱい

生の祖国の料理を習う」という企画も始まった。ギョーザに似た、モンゴルの包子（パオズ）など日本人になじみのあるものから、焼いた石を鍋に入れて沸騰させるパプアニューギニアの料理など、参加する社員が初めて見るような料理まで、いろいろなメニューが楽しめる企画である。

このような体験プログラムは、MUFGグループの社員も、日本にいながらにして貴重な国際交流体験ができるプログラムとして好評を博している。

学びを母国の発展に活かす

1年間の研修を終えた研修生たちは、それぞれが出身国へ帰っていく。帰国後、彼らはそれぞれが違う道に進む。ある者は出身国にあるオイスカの研修センターで働き、近隣の町や村への有機農業技術の指導にあたる。また別の者は政府系機関で植物栽培の研究を行う。そのほか、自身の持つ農場で、日本で習得した有機農法を使って農作物を育てたり、養鶏や畜産に日本で学んだ技術を活かしている者もいる。

国や働く場所は異なっているが、彼らにとっての夢には共通するものがある。それは「自分の国を良くしたい」という思いだ。この思いを大切に、アジアの発展につながるよう、MUFGは今後も「次世代社会の担い手育成」に取り組んでいきたい。

◆ MUFG グループの社会貢献活動
<http://www.mufig.jp/csr/society/>